

今月のことば

彼岸

暑い日が続きますが、まもなくお彼岸を迎えます。暑さ寒さも彼岸までの言葉のように、やがて過ごしやすい季節となることでしょう。

お彼岸の行事は、日本独特のもので、一年に二度、太陽が真西に沈む春分の日・秋分の日を中心に一週間と定めてあります。『観無量寿経』の日想観が起源といわれ、中日を挟んで前後三日間、み仏やご先祖に感謝し、六波羅蜜などの仏道修行を実践するものとされてまいりました。

およそ仏道修行は精進と努力が基本であり、法然上人のこの御法語も、念仏に励むあり方、念仏修行の心構えを述べられたものであります。

よくこの御法語は自力他力の念仏論争に展開されることがありますが、数にかかわらずなく精進を強調するにしても、阿弥陀仏の本願をたのむ念仏は、本願他力の念仏であります。

私たちは、日々の暮らしの中で、ふと自らの至らなさに戸惑い、恥ずかしい自分の行為に気づき、すべてを投げ出してしまいたい衝動に襲われる時があります。まさに罪悪生死・煩惱具足の凡夫であります。

しかし、そんな凡夫である私たちに、いつも働きかける阿弥陀様の大きな慈悲の存在を感じた時、その思いは、声となって何度も何度もその名を呼び続けることになるでしょう。

煩惱具足の凡夫が救われ往生できるのであります。なればこそ、一丈の堀を越えるには、一丈五尺の堀を越える心構えがなければなりません。

お彼岸には、阿弥陀様、ご先祖様に手を合わせ、心静かに自分を見つめ、お念仏に精進いたしましょう。

一丈の堀をこえんと

思わん人は、

一丈五尺をこえんと

励むべし。

「法然上人御法語」

教務部長 井澤隆明